

| 施策名  | 目標 2-3 地球環境保全に関する調査研究  |                      |                |        |                            |                |           |                      |                |        | 担当部局名                | 地球環境局<br>気候変動科学・適応室<br>気候変動観測研究戦略室  |          |                      |
|--|--|----------------------|----------------|--------|----------------------------|----------------|-----------|----------------------|----------------|--------|----------------------|---|----------|----------------------|
| 施策の概要  | 国内外の研究機関とのネットワーク構築等を通じ、地球環境分野のモニタリングや調査研究を推進する。  |                      |                |        |                            |                |           |                      |                |        | 政策評価実施予定時期           |   | 政策評価実施時期 | 令和 7年 8月             |
| 達成すべき目標  | 地球環境保全の基盤となる知見、技術、データ、情報を獲得し、途上国等へその知見等を展開・共有し、地球環境問題の解決に貢献する。   |                      |                |        |                            |                |           |                      |                |        | 政策体系上の位置付け           | 2. 地球環境の保全  |          |                      |
| 施策に関する内閣の重要政策<br>(施政方針演説等のうち主なもの)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>第六次環境基本計画(令和6年5月21日閣議決定)第3部等</li> <li>気候変動適応法(平成30年法律第50号)第二十七条 国際協力の推進、等</li> <li>革新的環境イノベーション戦略(令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定) 第2章 IV. 12. GHG削減効果の検証に貢献する科学的知見の充実</li> <li>宇宙基本計画(令和5年6月13日閣議決定) 第4章(2)(b)リモートセンシング</li> <li>宇宙基本計画工程表(令和6年12月24日宇宙開発戦略本部決定)(2)5 リモートセンシング</li> <li>2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略(令和3年6月18日策定)3. 分野横断的な主要な政策ツール</li> </ul> |                      |                |        |                            |                |           |                      |                |        |                      |   |          |                      |
| 測定指標   | 基準値  |                      | 目標値            |        | 年度ごとの目標値<br>年度ごとの実績値       |                |           |                      |                |        |                      | 測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠   | 達成       |                      |
|  | 基準年度   |                      | 目標年度           |        | R3年度                       | R4年度           | R5年度      | R6年度                 | R7年度           | R8年度   | R9年度                 |   |          |                      |
| 1<br>地球環境保全試験研究費による業務終了翌年度に実施する事後評価(5点満点)で4点以上を獲得した課題数(4点以上の課題数/全評価対象課題数)の過去5年間の平均 | -  | -                    | 75%以上          | -      | 60%                        | 60%            | 75%       | 75%                  | -              | -      | -                    | 地球環境保全試験研究費は、研究開発成果の「社会的・経済的・行政的価値」、「科学的・技術的価値」等の必要性・有効性・効率性に関する指標を用い、事業終了後に「事後評価」を外部評価委員会により実施している。指標と目標の設定については、優れた研究であったと説明できる4点以上の研究開発課題が全体の75%(R5年度より見直し)を占めることが概ね国民理解を得られるラインと考えられ、また単年度ごとの評価では課題数が少なく適切な評価ができないため、過去5年間の平均とする。 | ○        |                      |
| 測定指標   | 基準   |                      | 目標             |        | 施策の進捗状況(目標)<br>施策の進捗状況(実績) |                |           |                      |                |        |                      | 測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠  | 達成       |                      |
|  | 基準年度   |                      | 目標年度           |        | R3年度                       | R4年度           | R5年度      | R6年度                 | R7年度           | R8年度   | R9年度                 |   |          |                      |
| 2<br>各種成果の政府計画、施策、国際協力、普及啓発等への活用   | -  | -                    | -              | -      | 成果の施策への活用                  | 成果の施策への活用      | 成果の施策への活用 | 成果の施策への活用            | -              | -      | -                    | 地球温暖化対策として、温室効果ガスの削減や気候変動による影響への適応は必要不可欠であることから、地球環境分野のモニタリングや調査研究を推進し、地球環境保全の基盤となる知見、技術、データ、情報を獲得して施策等に活用するとともに、途上国等へその知見等を展開・共有するなど、各種成果を政府計画、施策、国際協力、普及啓発等へ活用することが重要であるため。   | ○        |                      |
| 達成手段<br>(開始年度)   | 関連する指標   | 行政事業<br>レビュー<br>事業番号 | 達成手段<br>(開始年度) | 関連する指標 | 行政事業<br>レビュー<br>事業番号       | 達成手段<br>(開始年度) | 関連する指標    | 行政事業<br>レビュー<br>事業番号 | 達成手段<br>(開始年度) | 関連する指標 | 行政事業<br>レビュー<br>事業番号 | 達成手段<br>(開始年度)  | 関連する指標   | 行政事業<br>レビュー<br>事業番号 |
| (1)<br>地球環境戦略研究機関<br>拠出金<br>(平成10年度)   | 2  | 004776               | (5)<br>-       | -      | -                          | (9)<br>-       | -         | -                    | (13)<br>-      | -      | -                    | (17)<br>-   | -        | -                    |
| (2)<br>地球環境に関するアジア太平洋地域共同研究・観測事業拠出金<br>(平成16年度)                                    | 2  | 004777               | (6)<br>-       | -      | -                          | (10)<br>-      | -         | -                    | (14)<br>-      | -      | -                    | (18)<br>-   | -        | -                    |

|     |                                  |     |        |     |   |   |   |      |   |   |   |      |   |   |   |      |   |   |   |
|-----|----------------------------------|-----|--------|-----|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|------|---|---|---|
| (3) | 地球環境保全試験研究費<br>(平成13年度)          | 1.2 | 004778 | (7) | - | - | - | (11) | - | - | - | (15) | - | - | - | (19) | - | - | - |
| (4) | GOSATシリーズによる地球環境観測事業<br>(平成18年度) | 2   | 004989 | (8) | - | - | - | (12) | - | - | - | (16) | - | - | - | (20) | - | - | - |

|                           |                         |  |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |        |  |                      |  |
|---------------------------|-------------------------|--|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--------|--|----------------------|--|
| 評価結果                      | 目標達成度合いの測定結果            | (各行政機関共通区分)  | ②目標達成   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |        |  |                      |  |
|                           | 目標達成が出来なかった要因、その他施策の課題等 | (判断根拠)   | <p>○地球環境保全試験研究費について、外部有識者により構成される評価委員会が業務終了翌年度に実施する事後評価(5点満点)において、4点以上を獲得した研究開発課題数(4点以上の課題数/全評価対象課題数)の過去5年間の平均を実績値として、目標達成度を測定している。令和2年度～令和6年度の平均は89%で目標は達成された。</p> <p>○各種研究調査の推進・成果等の情報提供の進捗状況については、得られたデータや知見等について、「気候変動適応計画」の策定、IPCCの各種報告書、COPにおける交渉等に活用されており、施策の目標は達成されている。</p> |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |        |  |                      |  |
|                           | 次期目標等への反映の方向性           | 【施策】   | 目標に向けて着実に進展しており、引き続き実施する。   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 【測定指標】 |  | 適切に測定できていることから変更しない。 |  |
|                           | 学識経験を有する者の知見の活用         | <p>&lt;参考: 施策の実施における活用状況&gt;</p> <p>○地球環境保全試験研究費については、その採択審査、中間評価及び事後評価において学識経験を有する外部評価委員の知見を活用しながら審査を実施し、その審査結果を踏まえ、当該制度を運用している。</p> <p>○IGES((公財)地球環境戦略研究機関)の運営に際しては、内外の学識経験者からなる評議員会での審議等により、外部有識者の知見を活用しつつ、適切に行っている。</p> <p>○APN(アジア太平洋地球変動研究ネットワーク)の公募プロジェクトの審査には、外部評価者を活用することで公正な評価を行っている。</p> <p>○専門家によるGOSAT/GOSAT-2サイエンスチームでの議論をGOSAT/GOSAT-2の運用に反映させている。</p> <p>○有識者会合での議論をGOSATシリーズの排出量推計技術の向上に反映させている。</p> | SDGs目標との関係  | <p>【主な目標】</p> <p>GOSATシリーズ、地球環境保全試験研究費により、地球温暖化の原因物質や直接的な影響を的確に把握する包括的な観測・監視を主導的かつ着実に実施することにより、気候変動とその影響の予測・評価による行政課題の解決等に資する科学的知見を集積した。当該取り組みにより、目標13番「気候変動に具体的な対策を」の達成に貢献した。</p> <p>【副次的効果が期待される目標】</p> <p>○パリ協定に基づく、より正確かつ透明性ある温室効果ガス排出量報告に向け、途上国におけるGOSATシリーズを利用した協力関係構築を進めている。当該取組によって、目標17番「パートナーシップで目標を達成しよう」への達成に貢献した。</p> <p>○GOSATシリーズ、地球環境保全試験研究費による、海洋、陸域等に関する継続的な観測研究により、気候変動問題だけでなく、観測対象(海洋、陸域)の科学的知見の蓄積にも寄与するという観点で、目標14番「海の豊かさを守ろう」と目標15番「陸の豊かさを守ろう」の達成に貢献した。</p> |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |        |  |                      |  |
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | -                       |  |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |        |  |                      |  |